

# 夢占

楠山正雄

青空文庫



一

むかし、撰津国の刀我野という所に、一匹の牡鹿が住んでいました。この牡鹿には二匹のいい牝鹿があつて、一匹の牝鹿は撰津国の夢野に住んでいました。もう一匹の牝鹿は、海を一つへだてた淡路国の野島に住んでいました。牡鹿はこの二匹の牝鹿の間を始終行つたり来たりしていました。

けれども牡鹿は撰津の牝鹿よりも、淡路の牝鹿の方を、よけい好いていました。そしていつも淡路の方へ行つて遊んでいることが多いので、夢野の牝鹿はさびしがつて、淡路の牝鹿をうらんでいました。

二

ある日めずらしく牡鹿は夢野の牝鹿の所へ来て、一日遊び暮らしてました。そしてそのあくる朝帰ろうとする時、ふと悲しそうな、心配そうな目をして、ため息を一つつき

ました。牝鹿はふしぎに思つて、

「あなた、どうかなきいましたか。大そう顔色が悪いようですね。」  
とたずねました。

牝鹿は、

「なあに何でもありませんよ。」

といつて、強く首を振りました。

「いいえ、ため息をおつきになつたりなんかして、きっと何か御心配なことがあるのでしよう。わけを話して下さいまし。」

と牝鹿がしつこくせめました。そこで牝鹿もしかたなしに、

「じつはゆうべ、いやな夢を見てね。」

といいました。

「それはどんな夢。」

「何でもわたしが野の中を歩いていると、いつの間にか頭の上に草が生えて、背中には雪が積もつた。どうしたのかと思つて、気持ちが悪くから、雪を払おうとすると、夢が覚めた。いったい何の知らせだろうか。気になつてしかたがない。」

といいました。

すると牝鹿は、ふと思いついて、これはちようどいい折だから、こういう時に牝鹿をおどかして、もうこののち海を渡つて淡路へ行くことを、思い止まらせてやろうと考えて、でたらめな夢占をたてました。それは、頭に草が生えたとみたのは、かりゆうどの矢が首に当たる知らせで、背中に雪の積もつたのは、殺されて塩漬にされる知らせだということです。

「だから今日は淡路へ渡るのは止して、ゆつくりここで遊んでおいでなさい。」  
と牝鹿はいいました。

「海を渡ればきつと途中でかりゆうどに射られて、殺されるかも知れません。」  
そう聞いて、牝鹿はこわくなりました。どうしようかと思つて、とうとうその日は一日ぐずぐず暮らしていましたが、日が暮れかかると、どうしてもがまんができなくなりしました。もうなんでも野島へ渡らずにはいられなくなりました。そこで夢野の牝鹿の止めるのもきかずに、とうとう出かけて行きました。

するとまったく占いのとおり、海を渡る途中かりゆうどに見つかつて、牝鹿は首を射られて殺されました。そしてそのなきがらは、雪のような塩の中に詰められて、人に食べ

られてしまいました。

ですから、うっかりじょうだんに占うらないなどを立たてると、それがほんとうになって、とんだ災さい難なんをうけることがあるものです。

# 青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 夢占

楠山正雄

2020年 7月17日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>